

「この聖書の言葉は、今日、実現した」(ルカ4・21より) —典礼における神のことば—

キリスト教の典礼は、ことばの要素としての要素によって成り立っています。しかし、典礼の歴史の中では、両者のいずれか一方が重視されたこともありました。カトリック教会ではしるし(sacrament)の側面が重視される時代が続きましたが、60年前の第2バチカン公会議による典礼刷新を経て、典礼における神のことばの重要性が再認識されました。本発表では、カトリック教会のミサのことばの典礼と聖書朗読配分などを手がかりに、典礼における神のことばの位置づけについて考察します。

講師： 宮越 俊光 氏 (日本カトリック典礼委員会委員)

<講師プロフィール>

上智大学大学院神学研究科博士前期課程修了。神学修士、STL。上智大学・清泉女子大学・東京音楽大学非常勤講師。日本賛美歌学会会長。著書『早わかりキリスト教』(日本実業出版社)、共著『人物でたどる礼拝の歴史』(日本キリスト教団出版局)、近刊『礼拝とシンボル』(日本キリスト教団出版局)など。

● 日 時：2022年11月15日(火) 17:10~18:40

新型コロナウイルスの感染防止のためZoom開催となります。
参加には事前登録が必要です。参加ご希望の方は右のQRコードから
11月9日(水)までにご登録ください。
後日、ZoomのURL等をお知らせいたします。

